

# 総義歯製作7つのポイント

## “健康美と機能の追求”

### Toda Denture System

良い物を知る団塊の世代の高齢化が進む今、歯科技工士の激減少化、これから激増するであろうより良い義歯に対応する「患者様が満足する健康美と機能を両立する義歯」を製作する技術が今後一層求められているのではないのでしょうか。

歯科技工士にとって総義歯が難しく悩む理由は根本的に生体ということと技術を歯科医師と連携するということがポイントになると思います。口腔内の失われた空間を復元形成する技術が必要な総義歯製作は、患者様により良い義歯を提供するためにはその情報を確実な意思伝達が求められます。建物を作る時に構造基準を含む設計図が必要なように総義歯製作にもそれに準じる基準設計が必要であるはずが製作する歯科技工士に設計が届けられていないのが現状ではないだろうか。模型に床外形線のみ書き込み“おまかせ”で依頼されていませんか？そこで歯科技工士として臨床において歯科医師と連携を上手くするための7つのポイントを理解することで「健康美と機能の追求」が可能になると思います。

患者様の生体意識、コミュニケーションと連携、総義歯の設計、個人トレー製作、模型設計・基礎床・咬合床製作、人工歯配列、歯肉形成、義歯完成までの数値化された基礎的な技術を歯科技工士の立場から解説していきたいと思います。

#### 自己紹介

#### コミュニケーションと連携の大切さ

#### 総義歯の設計とは

#### 7つのポイント

1. 個人トレー
2. 基準設計
3. 基礎床・咬合床
4. 咬合器選択・咬合器付着・人工歯選択
5. 人工歯配列
6. 歯肉形成
7. 重合・埋没・総義歯完成

2012年 10月  
歯科技工士 戸田 篤